

現金預金 第2問 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、問題文で指示されている勘定科目以外は、許容勘定科目表から最も適当と思われるものを選ぶこと。

1. 宮城商事(株)より商品を¥200,000 で仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。なお、当座預金の残高は¥150,000 であったが、銀行と¥1,000,000 を限度とする当座借越契約を結んでいる。
2. 青森物産(株)より売掛金¥300,000 を同社振出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金口座に預け入れた。なお、預け入れを行った時点における当座預金勘定は¥80,000 の貸方残高であったが、当社は銀行と¥1,000,000 を限度とする当座借越契約を結んでいる。
3. 決算にあたり、当座預金勘定の貸方残高¥30,000 を適切な勘定に振り替えた。
4. 現金の実際有高を調べてみたところ、帳簿残高よりも¥30,000 不足していることが判明した。
5. 現金過不足勘定の借方残高¥50,000 の内容を調査したところ、¥20,000 については支払地代の記入漏れであることが判明した。
6. 決算にあたり、現金過不足勘定の借方残高¥60,000 については、原因が判明しなかったので、適切な勘定に振替えることとした。
7. 決算にあたり、現金過不足勘定の貸方残高¥50,000 については、原因が判明しなかったため、適切な勘定に振替えることとした。
8. 当社は定額資金前渡法を採用しており、5 月分の小口現金¥100,000 を小切手を振り出して、小口現金の担当者に渡した。
9. 小口現金の担当者より月初に渡した小口現金¥120,000 について支払内容の報告があり、その内容は、交通費¥50,000、消耗品費¥40,000、通信費¥15,000、雑費¥5,000 であった。報告とともに支払額と同額の小切手を振り出して補給した。小口現金勘定を用いて仕訳すること。
10. 小口現金の担当者より月初に渡した小口現金¥150,000 について支払内容の報告があり、その内容は、交通費¥70,000、消耗品費¥40,000、通信費¥20,000、雑費¥10,000 であった。報告とともに支払額と同額の小切手を振り出して補給した。小口現金勘定を用いずに仕訳すること。

現金預金 第2問 模範解答

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	仕入	200,000	当座預金	200,000
2	当座預金	300,000	売掛金	300,000
3	当座預金	30,000	当座借越	30,000
4	現金過不足	30,000	現金	30,000
5	支払地代	20,000	現金過不足	20,000
6	雑損	60,000	現金過不足	60,000
7	現金過不足	50,000	雑益	50,000
8	小口現金	100,000	当座預金	100,000
9	旅費交通費	50,000	小口現金	110,000
	消耗品費	40,000		
	通信費	15,000		
	雑費	5,000		
	小口現金	110,000	当座預金	110,000
10	旅費交通費	70,000	当座預金	140,000
	消耗品費	40,000		
	通信費	20,000		
	雑費	10,000		

※ 3.の「当座借越」は「短期借入金」でもよい。